

# 2023年度活動報告書

自：2023年4月1日

至：2024年3月31日

## I. 事業実施概要

2023年度は新型コロナウイルス感染症が5類へと緩和となり、3年ぶりに諸活動の制限が解けて社会活動はコロナ禍前の状況に戻ってきた。当協会も計画通りの活動が可能となり、目標達成に向けて積極的に対外的な活動を行うことができた。

我が国の経済を取り巻く情勢としては、主要国の金融政策の影響により為替レートが円安傾向で推移したことから、飼料価格が高止まりしているだけでなく、輸入原材料の調達コストにも影響した。また、緊迫化する中東情勢により原油価格等への影響も懸念されており、先行きは予断を許さない状況にある。

こうした情勢の中、酪農家においては生産資材価格高騰による生乳生産コストの上昇が依然として経営を圧迫していたため、乳業者は2023年4月に乳製品向け乳価、8月に飲用向け乳価、そして12月にふたたび乳製品向け乳価を引き上げた。

乳価の引き上げが行われたものの、生乳生産コスト上昇分の吸収が十分でない一部の酪農経営を中心に、離農の増加が続いた。他方、一昨年からの生産者団体が実施している生乳生産抑制対策に加え昨年夏の猛暑の影響もあり、生乳生産は前年から減少傾向が続いていたが、年度末に向けて回復傾向となっている。

他方、乳業では、乳価等の生産資材価格の高騰を牛乳・乳製品価格に転嫁した結果、全般的に消費は減少したものの、価格改定の効果により収益性は改善しつつある。

こうした中、国は飼料等の生産コストの上昇分を適正に価格に反映させるため、「畜産・酪農の適正な価格形成に向けた環境整備推進会議」「適正な価格形成に関する協議会」「同飲用牛乳ワーキンググループ（WG）」を相次いで立ち上げ、検討が開始された。

乳製品在庫に目を転じると、生乳生産は抑制されたものの、価格改定に伴う消費の減退もあって脱脂粉乳在庫の積み増し傾向は続いていた。このため、2023年度も前年度に引き続き「酪農乳業乳製品在庫調整特別対策事業」が継続実施され、脱脂粉乳の2023年度末在庫は50.5千トンまで減少する見込みであるが、今後とも在庫の積み増し傾向は続くものと推測されている。他方、バター在庫については、需要の回復により前年度の在庫水準を下回る傾向が続いており、バターと脱脂粉乳の需要の不均衡が課題となっている。

これらの諸課題に加え、2023年度は「物流の2024年問題」が喫緊の課題としてクローズアップされてきた。この問題は労働時間制限により相対的なドライバー不足、物流コストの増加のみならず物流量、頻度の制限が生じるなど全産業に深刻な影響を及ぼす可能性がある。解決のためには、従来の枠組みを超えて物流体制の効率化を図る必要に迫られている。

当協会が実施した調査結果において、課題解決のためには厳しい納品条件など、流通との製品取引に関する商習慣を改善する必要があることが明らかになった。商習慣の改善は食品ロス削減の観点からも期待されるものであるが、個社での対応が難しい案件のため、業界団体として行政、流通団体と改善に向けて調整を図っている。

当協会は酪農乳業界を取り巻く厳しい環境変化の中で、年度計画に掲げた重要課題への取り組みの見直しを図り、更に新たな取り組みを加えながら、活動を行ってきた。

生産技術部においては、牛乳等の衛生・品質管理の向上に取り組んでいるが、生乳需給が緩和している中で品質事故が発生すると乳業界全体への信頼を毀損し、消費にも影響を及ぼすリスクがあることから、特に品質管理基盤の脆弱な小規模乳業者を中心とした品質管理レベルの底上げは今後も継続して取り組むべき課題であると認識している。このため、会員各社の技術者育成に向けた各種講習会の開催に加え、特に人材育成に苦慮している小規模事業者に対する講習会や現場における品質管理指導事業に本格的に取り組んだ。

また、容器包装の規格基準の見直しやL L牛乳製造における大臣承認制度の撤廃や乳児用調製乳への栄養素添加物の追加指定に向けた活動は、牛乳乳製品の輸出拡大なども含め中長期的な視点で乳業者の利益に資するものとして取り組みを進めた。このうち、L L牛乳製造における大臣承認制度については、2024年3月に乳等省令が改正され撤廃されるなどの成果を収めた。

企画・広報部（企画）においては、昨年4月から開催された「畜産・酪農の適正な価格形成に向けた環境整備推進会議」とそれに続く「適正な価格形成に向けた協議会」「同 飲用牛乳ワーキンググループ」には乳業者側の代表として参画し、実態に即した議論が行われるよう積極的に意見表明を行った。

企画・広報部（広報）においては、牛乳消費拡大のカギとなる若者世代へのアプローチを進めるために、10代ミルクプロジェクトとして高校生を対象としたインタビューやグループディスカッション等による情報収集、牧場や工場見学を通じた理解醸成活動を行った。

環境部においては容器包装リサイクル法の改正も視野に入れながら、経団連・カ

ーボンニュートラル行動計画、循環型社会形成自主行動計画や容器包装3Rの目標などの達成に向けて、経団連、資源リサイクル関係団体の活動に参画して業界としての目標達成のために、会員に対しての情報の発信・共有化や、会員個社への活動支援を進めてきた。また新たな取り組みとして食品ロス削減に向けた活動を開始し、乳業者の食品ロスの原因の一つとなっている流通との厳しい納品条件などの商習慣について、会員へのアンケート調査を実施してその実態を把握するとともに、関係官公庁、団体と連携を図りながら改善に向けて取り組んできた。

これら各部の活動に加えて、協会共通の取り組みとして牛乳消費拡大・理解醸成活動として紙容器側面広告、専用WEBサイトの設置、都道府県協会との連携の下でのキャンペーンなど多角的な取り組みを行い効果的な情報発信を図ったほか、年度末には牛乳の調理需要を喚起する追加施策も実施した。

また、社会的に解決すべきテーマとなっているSDGsについては、各地の乳業者の取組事例を調査し、乳協HP一般サイトで調査報告書等を公開することにより普及を図るとともに、業界としてSDGsに取り組んでいることを一般にも周知してきた。

## II. 各部の取り組み結果

### 1. 生産技術部の取り組み結果

2021年6月よりHACCPが義務化されたが、その後も学乳における品質事故が相次ぐなど、HACCP義務化対応への取り組みが急務となっている。また、小規模事業者によるこれらの事故においては、HACCP義務化対応への遅れのほか、工場全体の製造管理体制が十分でない現状が明らかになった。この状況を踏まえ、2022年度より開始した小規模事業所の製造管理者を対象とする「製造管理者講習会」や、「HACCP手引書講習会」を継続し小規模事業者の管理体制強化を図った。

また、2022年度に実施したアンケートで小規模事業者に対する個別の技術支援のニーズが明らかになったことを受け、現地における一般衛生管理計画やHACCPプランの作成に対しての、指導・支援を5事業者に対して実施した。

一方、大手中堅乳業会社に対する「HACCP実務者講習会」は2020年に改訂されたCODEX食品衛生の一般原則に基づき、演習を主体とした実務的な内容として、主に品質管理を担う若手技術者の育成を目的として2回実施した。

なお、牛乳・乳製品の衛生・品質上の課題対応のために生産技術委員会を、適正な表示等の実現に向けて乳製品表示検討委員会を、それぞれ開催して検討を進め、行政への要請並びに会員への適切な情報の提供及び周知を図った。

#### 1) 乳業施設の衛生・品質管理体制強化のための取り組み

以下の講習会、事業を実施した。

##### (1) HACCP実務者講習会

HACCP実務者講習会の開催日程については、参加者の負担軽減のため、これまでの3日間の集合研修から講義部分は事前配信（オンデマンド）とし、2日の演習主体の集合研修で実施した。東京会場で9月25～26日に15名の参加者で実施した。また、地方での開催については、九州地区から要望があったため、初めて、博多会場で12月20～21日に13名の参加者で実施した。

##### (2) HACCP手引書講習会

クリーム及びバターのHACCP手引書については、昨年度改訂した牛乳・乳飲料の手引書と同様の内容で改訂案を作成した。11月6日に厚生労働省の検討会にて討議され、委員より出された意見を反映し2024年1月31日に公開された。今回の改訂により、牛乳・乳飲料の手引書も若干の改訂が必要となったため、Ver3.1として厚生労働省の確認を得て、2月26日に公開された。これらを踏まえ、改訂された手引書の内容を周知するため、HACCP手引書講習会をオンデマンドで3月より配信した。

(3) 牛乳衛生講習会

牛乳衛生講習会については、今年度は昨年度以上に積極的に各都道府県協会に開催を働きかけた結果、17 地区 516 名参加での開催となり、昨年度の 13 地区 392 名を大きく上回る結果となった。

(4) 乳製品表示講習会

乳製品表示講習会は 8 月 2 日にて東京会場の第 1 回目の講習会を 19 名の参加者で開催した。10 月 19 日には札幌での開催を予定していたが、応募者が 6 名と開催における内規を大幅に下回ったため、開催を見送ることとした。2024 年 2 月 2 日に東京での 2 回目を 18 名の参加者で開催した。

(5) 製造管理者講習会

製造管理者講習会は 11 月 28 日に東京会場にて第 1 回目を 14 名の参加者で開催した。第 2 回目を 2024 年 1 月 23 日に大阪で開催する予定であったが、応募者が 5 名と開催における内規を大幅に下回ったため、見送ることとなった。

(6) 小規模事業者衛生管理支援事業

今年度より現地支援を開始することとなった小規模事業者衛生管理支援事業は 9 月から 11 月にかけて現地調査を計 5 事業者に対して実施した。その後、同事業者に対するフォローアップとして 2 回目の現地調査を 24 年 1 月から 3 月にかけて実施した。今事業で抽出された問題点については、下期ブロック会議で共有した。来年度は対象事業者を拡大して、実施する予定としている。

## 2) 牛乳・乳製品の制度改正に係る取り組み

(1) 食品衛生法、乳等省令、食品表示基準等

・容器包装規格の改正については、器具容器包装の用途別規格改正ワーキンググループにおいて検討された原案が、2024 年 2 月 16 日に厚生労働省の器具容器包装部会にて審議され、事務局提案内容が了承された。今後、内閣府食品安全委員会への諮問・答申、パブコメ等が実施される見込みとなっている。

・L L 牛乳等の規格基準化については 6 月 29 日に厚生労働大臣あて要望書を提出した。その後、8 月 2 日に厚生労働省薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会乳肉水産食品部会、9 月 12 日に内閣府食品安全委員会、10 月 30 日に内閣府食品安全委員会微生物・ウイルス専門調査会において審議され、大臣承認制を廃止し、必要な規格基準を設定することについて同意が得られた。厚生労働省において、パブリックコメントの募集が 2024 年 2 月 17 日に終了し、2 月 22 日開催の薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会にて改正案が

報告された。その後、省令改正の手続が行われて3月19日に公布・施行となった。

(2) ガイドライン改訂

期限表示設定のガイドラインの内容については、牛乳等、乳製品及び乳主原(アイスクリーム、発酵乳を除く)を対象とした改訂原案を乳製品表示検討委員会で検討を行い、他団体での手続きを終えた後、11月8日に乳協HP会員サイトで公開した。更に、全国飲用牛乳公正取引協議会が会員に対して実施したガイドライン説明会へ出席し協力を行った。

(3) 乳児用調製乳の国際規格適合化促進事業

6月29日に厚生労働省審議官あて栄養素添加物の指定について要望書を提出した。調整粉乳技術小委員会にて助言者を交えて討議し、ビタミンK1を第1番目の申請品目として作業を行った。

(4) HACCPの普及に関する活動

バター及びクリームのHACCP手引書については厚生労働省の検討会における意見を反映し、2024年1月30日に公開された。牛乳・乳飲料の手引書においても、クリーム、バターの手引書に対する意見を反映し、Ver3.1として、2月26日に公開された。また、改訂内容の周知のため、HACCP手引書講習会として3月より動画配信を行った。

(5) その他

生乳検査精度管理認証制度や官能評価員養成研修への協力対応のため、日本乳業技術協会の主催する乳・乳製品の官能評価員能力向上・認定事業検討会に出席した。

### **3) 牛乳等衛生功労者の表彰**

牛乳等衛生功労者の表彰については、会長表彰贈呈者5名、会長感謝状贈呈者8名、永年勤続表彰贈呈者2名の計15名に対して表彰を行い、祝賀会を開催した。

## 2. 企画・広報部（企画）の取り組み結果

生乳需給の緩和が続く中、農林水産省、Jミルクと連携して脱脂粉乳の過剰在庫処理対策を推進するとともに、タイムリーな需給状況把握により、生乳需給の安定化に努めた。また、酪農・乳業に係る政策的な課題については、乳業基本問題検討委員会等において業界意見を集約し、行政との意見交換や畜産部会等を通じて意見表明を行った。

国際関係では、日本畜産物輸出促進協議会の一員として、同協議会の一般社団法人化を推進すること等を通じて牛乳乳製品の輸出促進の取り組みを支援した。

また、新たに「物流の2024年問題」への対応として、乳業界における自主行動計画を作成し、乳協HP一般サイトへ掲載した。

能登半島地震における被災者への支援として、農林水産省の要請に基づき、物資を調達した。

### 1) 需給均衡の推進

#### (1) 牛乳・乳製品の需給予測

牛乳・乳製品需給検討委員会を開催し、需要量・生産量及びバター・脱脂粉乳の在庫水準等について予測を行い、乳協HP会員サイトを通じて会員に情報を提供した。

また、2023年5月18日、7月14日、9月15日、12月15日、2024年1月17日にJミルクの需給委員会に参画し、需給情報を共有した。

#### (2) 乳製品需給の過不足対応

Jミルクと連携を取りながら、会員に「酪農乳業乳製品在庫調整特別対策事業」参画への理解と協力を求めた。また、需給検討委員会での予測をもとに、乳製品の需給均衡に向け、農畜産業振興機構（a l i c）の乳製品需給等情報交換会議に参加してカレントアクセスでの輸入をバターに寄せるなど、早めの対応を要請した。

#### (3) 牛乳・乳製品需給検討委員会の開催

牛乳・乳製品需給検討委員会を2023年5月17日、9月12日、12月12日、2024年2月14日に開催。また、バター・脱脂粉乳の需給を意識し、7月に大手4社にアンケートを実施した。

### 2) 「畜産経営安定法」、「酪肉近代化基本方針」等への対応

今年度は、乳業界にとって影響が大きい、「畜産・酪農の適正な形成に向けた環境整備推進会議」（2023年4月28日、5月26日、6月13日）及び「適正な価格形成に関する協議会」（2023年8月29日、10月11日、12月27日）、同飲用牛乳ワーキンググループ（2023年10月20日、11月17日、2024年3月15日）の

開催に当たり、乳業界が不利益を被ることが無いよう対応を図ってきた。

ワーキンググループ会議に当たっては、事前に乳業基本問題検討委員会を開催（2023年10月5日、2024年1月16日）して意見を共有し、乳業としての意見反映に努めた。

「畜産・酪農の適正な価格形成に向けた環境整備推進会議」の中間とりまとめの内容については、当協会ブロック会議で説明した。また、農林水産省の担当者を招いての中間とりまとめ説明会（8月3日 於：乳業会館会議室）を開催し、その模様を乳協HP会員サイトにてオンデマンド配信して会員への情報周知を図った。

### 3) 国による乳業関連事業への対応

#### (1) 学校給食用牛乳供給事業制度の堅持及び円滑な推進

ブロック会議やアンケートを通じて学乳事業に関する意見を集約した。これらの意見は協会内で整理し、Jミルクの学乳問題特別委員会においての意見として提起し、農林水産大臣宛に発出された学校給食用牛乳の安定供給及び利用の推進に係る要請書（2023年6月1日付）の内容に反映するよう努めた。

#### (2) その他の乳業関連補助事業の支援

「国産乳製品需要拡大緊急対策事業」（バター対策：2021年度事業）の残り分289トンについて、2023年7月までに置換を全て終了した（農畜産業振興機構へ報告）。

### 4) 国際化の進展への対応

#### (1) 牛乳乳製品輸出部会の運営等

第1回牛乳乳製品輸出部会（4/27）において、JFOODOセミナーを開催し、シンガポール市場における乳製品の購入実態や日本産乳製品の浸透状況等の調査結果を報告。第2回部会（総会）（8/31）では、令和4年度補正予算の概要（輸出予算）を農林水産省輸出企画班から説明頂くなど、輸出促進に向けた情報発信を実施した。





また、品目団体輸出力強化緊急支援事業（294万円）を受託し、牛乳乳製品輸出ロゴマークの商標登録の出願申請を継続（29類5カ国、5類・30類6カ国）。今年度は5カ国の登録が完了（29類2カ国、5類・30類3カ国）。その他、登録済み14カ国（29類8カ国、5類・30類6カ国）の維持・管理に努めた。

ロゴマークの使用について、Jミルクから申請のあった「インバウンド等牛乳乳製品消費拡大緊急対策事業」における広報資材や海外でのPR活動に対し、牛乳乳製品輸出ロゴマーク使用許諾証を発行しており、パンフレットやTシャツ、ポスター等に活用された（第1号）。



## (2) 日本畜産物輸出促進協議会の一般社団法人化への対応

日本畜産物輸出促進協議会輸出部会打合せ（法人化検討連絡会）の内容を確認（2023年6月27日開催、6月28日内容確認）。9月13日に一般社団法人日本畜産物輸出促進協会が設立された。

牛乳乳製品輸出部会を牛乳乳製品輸出協議会に名称変更（8月31日牛乳乳製品輸出部会総会で承認）し、9月15日付けで入会した。

一般社団法人日本畜産物輸出促進協会は11月に認定農林水産物・食品輸出促進団体（いわゆる品目団体）として認定されたことで、今後、さらに輸出に力を入れることになった。

## 5) 「物流の2024年問題」等への対応（新規）

昨年6月に経済産業省・農林水産省・国土交通省より作成・公表された「物流の適正化・生産性向上に向けた荷主事業者・物流事業者の取組に関するガイドライン」に基づき、「乳業界の自主行動計画」を作成し、公表した（2023年12月6日）。



作成に当たっては、事前に農林水産省牛乳乳製品課と打合せを行い、会員には、新事業・食品産業部が実施する「自主行動計画作成に関する説明会」への参加を案内するとともに、自主行動計画の案の段階で内容を確認していただいた。

また、三省で「ガイドラインの取組状況」に関するアンケート調査が3月に実施されたが、今後、農林水産省牛乳乳製品課でも当協会会員に対し「乳業界の自主行動計画」に関するアンケートやヒアリング、現地調査等を実施、フォローアップを計画していることから、その対応に対するフォローを実施する。

## 6) 能登半島地震における被災者への支援

2024年1月1日に発生した能登半島地震における被災者への支援として、農林水産省からの救援物資の支援要請を受け、会員企業のご協力のもと、以下の物資を調達した。

1月(1/2~1/31)：粉ミルク 648点、液体ミルク 6,820本、LL牛乳 8,064本

2月(2/1~2/29)：液体ミルク 1,008本、LL牛乳 38,016本

3月(3/1~3/24)：LL牛乳 12,624本

合計：粉ミルク 648点、液体ミルク 7,828本、LL牛乳 58,704本

### 3. 企画・広報部（広報）の取り組み結果

牛乳・乳製品の消費拡大に向け、対面型に加えて、動画提供による食育事業やSNSを活用した普及・啓発活動を推進した。

新たな試みとして、将来の消費の基盤ともなる10代に対して、「10代ミルクプロジェクト」をスタートさせた。

情報発信・拡散力を強化すべく、新たな媒体や業界のインフルエンサーの活用を探索・検討した。

#### 1) 食育事業・相談対応

##### (1) 相談・対応

相談室への牛乳・乳製品に関する問い合わせに対応し、消費者の牛乳・乳製品に対する理解を高めた。相談件数は241件（前年同期305件）だった。また、以下のTV、新聞などメディア取材対応を行った。

番組名	媒体	内容
g r a p e	デジタルコンテンツ	学乳について
グレーテルのかまど	NHK	牛乳プリン
g r a p e	デジタルコンテンツ	バターについて
まいどなニュース	神戸新聞	バター事情
M I X	FM秋田	容器の歴史

##### (2) 学校・教育関係者、保護者対象の食育勉強会

学校・教育関係者および保護者に対して、牛乳・乳製品に関する講話（対面またはオンライン）と調理実習（デモ動画活用）を行った。実施回数は31回（前年同期22件）だった。

##### (3) 小中高生対象の食育授業

小中高生に対して、牛乳・乳製品に関する講話（対面またはオンライン）と調理実習（デモ動画活用）を行うとともに、動画教材を提供し、栄養教諭が食育授業で活用できるようにした（Jミルク協働）。実施回数は、対面が83回（前年同期54件）、動画教材申込172件（前年同期135件）

また、最も牛乳離れが進む時期の高校生を中心とする10代向けに制作した食育動画「#きみは、きみのたべたものでできている」は案内エリアを拡大し、全国約5,200校に案内した（申し込み校数約1,000校）。

(4) 大学生対象の「3-A-Day セミナー」

将来、小中学校の食育や給食献立に関わる栄養学系学生を中心とした大学生に対して外部講師による牛乳・乳製品の栄養学講義を実施し、牛乳・乳製品の栄養的重要性と、小中高生の食生活における習慣化の重要性を理解してもらった。

実施は以下の3回だった。

- ・鎌倉女子大学（対面 9/22）
- ・鎌倉女子大学（オンライン 9/25）
- ・女子栄養大学（対面 12/8）

(5) 業界関係団体のイベントへの参画

行政や関係団体等主催のイベントに参加するとともに、情報発信、広報内容及び出展の充実を行った。

- ・6/24-25 「第18回食育推進全国大会 in 富山」  
(主催者発表来場者 23,300名)
- ・8/3 全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会
- ・10/19, 20, 25 11/8, 20, 25 もう～もう～スクール（兵庫県酪協主催）
- ・11/3 Jミルク「土日ミルクイベント」  
(東京・豊洲・来場者 23,800名)
- ・11/18 中国生乳販連 牛乳乳製品料理コンクール（審査員）

(6) SNSを活用した牛乳知識の発信

消費者向けにX（旧Twitter）を通じて牛乳・乳製品が親しまれるツイートを日本乳業協会相談室名で毎週発信するとともに、牛乳・乳製品の知識に関する短編動画を制作し、乳協HP一般サイトにてYouTubeを通じて発信した。

- ・X（旧Twitter）（週1回発信）
  - ・フォロワー数：653人
  - ・期間中インプレッション総数（ユーザー画面表示数）：1,086万回
  - ・期間中エンゲージメント総数（リツイート、返信、いいね、投票、ハッシュタグのクリック総数）：31万回

また、イラストレーターの「うのき氏」による「牛乳先生」シリーズ第3弾広告動画を配信した。その結果、期間中インプレッション総数546万回、期間中エンゲージメント総数28万回を獲得し、相談室のXのフォロワー数が108人増える結果となった。

## 2) 消費者向け「ミルクイベント」の開催

中央3団体（中央酪農会議・Jミルク・日本乳業協会）共催による一般消費者向けイベントで、酪農、牛乳・乳製品の栄養的重要性やそのおいしさ、楽しさについて学び、消費の裾野拡大を図る目的で実施した。

イベント内容に新機軸を盛り込み活性化させるため、コンペ方式によって業務遂行業者（イベント委託業者）を選定（前回と同じ産経新聞開発㈱）した。

「10代ミルクプロジェクト」と銘打ち、高校生をターゲットとして牛乳の栄養的価値や酪農乳業の将来について考える機会を創出した。さらに、人生のうちで最も牛乳（カルシウム）を摂取すべき10代後半の世代へ直接アプローチすることで、当該世代への牛乳摂取の必要性を訴求した。

参加校数と人数は、延べ44校、2,665人であり、うち24校へは事務局が直接現地へ赴き、高校生と直接意見交換を行った。グループディスカッションで集まった高校生の意見やアイデア、アンケート結果をまとめて、取り組み内容を乳協HP等で発信した。また、参加した高校でもHPや学校通信等で情報拡散をした。

## 3) 都道府県協会主催のイベント等での食育活動

都道府県協会が自治体等主催イベントで行う骨密度測定等、消費者の牛乳・乳製品に対する理解醸成を図る取り組みに対し、費用助成・相談員派遣を行った。

申請のあった6協会に対して実施した。

## 4) 会員企業による工場見学実施への支援

工場見学を再開した、または、新規で工場見学紹介ページを製作した会員企業からの乳協HP一般サイトへの掲載希望に対応した。

また、工場見学会や研修会・イベント等で活用する普及・啓発資料約7万部を、申し込みがあった会員等へ無償提供（送料は着払い）した。

ノベルティグッズ（「3-A-Day オリジナル油性ペン」）を、追加分含めて4万個製作し、希望する会員に無償で提供（送料は着払い）した。



2023年度ノベルティグッズ：3-A-Day オリジナル 油性ペン

## 5) 「牛乳・乳製品から食と健康を考える会」の開催

ジャーナリストや消費者等を代表するオピニオンリーダーを委員とし、食に関連する話題（学術、行政、トピックス等）を取り上げて、講演会と意見交換を行った。

- 2023年5月15日 第109回「牛乳・乳製品から食と健康を考える会」
  - ・ 講演：「世界で拡大を続けるプラントベースとプラントベースミルクについて」
  - ・ 講師：一般社団法人植物性料理研究家協会主催「プラントベースフードアドバイザー養成講座」講師 浅倉 亜美 氏
  - ・ 参加：委員6名、メーカー6名、ペンクラブ9名、乳協12名 計33名
  - ・ 7月19日に実施報告を乳協HP一般サイトに掲載
- 2024年3月6日 第110回「牛乳・乳製品から食と健康を考える会」
  - ・ 講演：「牛乳のイメージをリ・デザインする。～100年後の牛乳のために今できること～」
  - ・ 講師：ミルクマイスター®高砂氏
  - ・ 参加：委員6名、メーカー6名、ペンクラブ6名、乳協9名 計27名
  - ・ 4月下旬に実施報告を乳協HP一般サイトに掲載予定
  - ・ 2024年度の会の運営について当協会から以下を提案し、委員委嘱を行った。
    - ✓ 会の名称を「ミルクの未来を考える会」に変更する
    - ✓ 時宜にかなったテーマに関する講演と、それに関するディスカッションを基本構成とする
    - ✓ ディスカッションは、乳業メーカー、当協会も参加し、全員で行う
    - ✓ その内容を、委員、乳業メーカーそれぞれの立場やフィールドから、広く情報発信していただく
    - ✓ インフルエンサーと言われている方々に新規メンバーとして参加いただく

## 6) 「酪農乳業ペンクラブ」の運営

酪農乳業に関する迅速な情報収集と、会員である専門紙誌16社の記者による的確な情報発信を図るため、「酪農乳業ペンクラブ」の事務局として、見学会や研修会を企画・運営した。

### ① 記者説明会

2023年5月19日第12回定時社員総会後に、ペンクラブ会員記者に対し

て記者説明会を開催し、新任者の紹介と2023年度事業計画の概要説明を行った。

② 視察研修会

2023年7月6日～7日に実施した「総会&視察研修会」では、岩手県の全国酪農業協同組合連合会北福岡工場、奥中山高原農協乳業、おおのミルク工房、久慈平岳牧場、地元スーパーマーケットを視察した。



③ 2023年9月20日 秋季懇談会

4年ぶりに開催。都内のチーズレストランで、ペンクラブ会員、メーカー広報担当者、当協会にて情報交換を行った。

④ 2024年1月22日 冬季研修会

講師：農林水産省畜産局牛乳乳製品課 中村課長補佐

テーマ：「最近の酪農乳業事情について」

## 7) 普及・啓発活動の充実・強化に向けた取り組み

(1) 学校設置者への食育授業・勉強会案内周知依頼

食育授業、食育動画教材、教職員向け食育勉強会募集案内を学校設置者に依頼した。

(2) 普及・啓発ツールの充実

会員及び当協会が普及・啓発活動で使用使用するパンフレット類の内容を適時見直ししており、子どもたちに興味をもって読んでもらえるような仕立てにするとともに、一部内容が重複しているパンフレットのスクラップ&ビルドの観点で見直しを進めた。

(3) 広報委員会の運営

正会員乳業7社の広報・お客様相談部門の代表者で構成され、乳業における広報課題や時宜問題に関する情報交換と課題検討を行う場であるが、本年度は特に協議すべき課題はないため実施しなかった。

(4) 東京連絡会・関西連絡会の運営

正会員乳業6社の、東京及び大阪在勤のお客様相談・広報担当で構成し、

当協会の活動や相談対応状況の報告と情報提供、各社からの情報提供と意見交換を行った。

東京連絡会は毎月開催、関西連絡会は、参加メンバー間で協議し、6月以降隔月開催とした。

(5) 流通販売形態の変更等の取り組みへの支援

「令和5年度酪農緊急パワーアップ事業」の「販路拡大等支援事業」の交付申請を行った。ECサイト販路開拓（サイト構築、送料、増量への補助）、販売流通形態の変更（パッケージ変更への補助）、脱脂粉乳の新たな活用方法の開発及び普及等（レシピ開発と冊子の頒布・告知への補助）に対し、7団体（乳協含む）から130百万円の申請があった。

**8) 他団体等が実施する消費拡大策への商品供給での協力**

Jミルクが実施主体となった消費拡大（牛乳の無料配布）の取り組み、および行政からのプロモーション協力要請に対して会員乳業者の協力のもと以下の通り対応した。

(1) Jミルク：「日本栄養士会：栄養ワンダー2023」への牛乳の提供

Jミルクが、農畜産業振興機構の「牛乳乳製品の販路拡大等支援事業」を活用して、牛乳乳製品消費拡大プロモーション等支援事業として、公益社団法人日本栄養士会が全国で本年6月下旬～9月までの期間内に実施した「栄養ワンダー2023」の取り組みと連携し、管理栄養士・栄養士による牛乳の栄養面での価値を訴求する活動を行った。全国約2,000カ所の実施施設に対して、Jミルクが牛乳200mLを計23万本提供した。

当協会では、そのうち、東京都で約180ヶ所に対して計約24,000本、福井県で8ヶ所に対して計約180本を提供した。

(2) Jミルク：「訪日外国人への国産牛乳無償提供」

Jミルクが、農畜産業振興機構の「牛乳乳製品のインバウンド等消費拡大緊急対策」を活用し、外国人観光客に日本の牛乳・乳製品のおいしさを知ってもらい、来日中のインバウンド需要喚起と、帰国後に日本産牛乳乳製品を購入してもらうことで輸出促進につなげることを目指し、国際空港やホテル、観光地等で牛乳の無償提供を行った。なお、農林水産省の意向で、牛乳乳製品の輸出に取り組んでいる会員乳業者が生産する牛乳を中心に配布を行った。

2023年

- ・6月 成田国際空港 7,200本
- ・8月 中部国際空港 2,400本



- ・9月～2月 成田東武ホテルエアポート 毎月4,800本
- ・10月～11月 関西ツーリストインフォメーションセンター(KTIC)
  - －関西国際空港内 計38,400本
  - －京都タワー内 計5,040本
  - －大阪・道頓堀(大阪市観光案内所) 計3,000本

2024年

- ・2月 羽田国際空港 2,400本



(3) 観光庁主催：「日ASEAN観光大臣特別対話 歓迎レセプション」での国産牛乳試飲への牛乳の提供

「日ASEAN友好協力50周年」の昨年、日ASEAN間の相互交流の促進を図るとともに、本対話を通じて、ディスティネーションとしてのアジア地域の魅力を高め、アジア太平洋地域における日本のプレゼンス強化に繋げる目的で、2023年10月27～29日に「日ASEAN観光大臣特別対話」が観光庁主催で開催された。その歓迎レセプションにおいて、日本産の食品・酒類等の魅力を発信するため、会場特設ブースにて日本産の日本酒、日本産フルーツジュース、日本ワイン、梅酒、甘酒等を提供し、ASEAN観光大臣、ASEAN事務総長、政府関係者、国際機関（UNWTO・日本アセアンセンター等）が試飲を行った。

また、日本食品海外プロモーションセンター（JFOODO）からの依頼で、甘酒を牛乳で割って飲む提案コーナーで使用する牛乳（チルド／1ℓ6本）と、そのまま飲みたいと希望される方へ配布する牛乳（LL／200ml24本）を提供した。



#### 4. 環境部の取り組み結果

経団連・カーボンニュートラル行動計画については、2030年度目標へ向けて、順調に推移している。経団連・循環型社会形成自主行動計画については、3項目の目標を全て達成している。

厳しい納品期限等の商習慣が続き、製品廃棄ロスの原因となっている懸念があり、更にはこの状況を悪化させる要因となり得るいわゆる「物流の2024年問題」が目前に迫っていることから、チルド流通の「種類別 牛乳」（学乳を除く）に絞ってアンケート形式で実態調査を実施し、消費者庁、農林水産省を訪問・アドバイスを求めた上で、下期のブロック会議にて説明を行い、乳協HP一般サイトにて公開し、内閣府特命担当大臣、農林水産大臣宛に当協会会長名で「牛乳等の食品ロス削減に向けた商習慣改善に関する要望書」を提出するとともに流通主要5団体に対して協力要請書を当協会会長名で提出し、更にプレスリリースを行った。

飲料用紙パックのリデュースについては、2021年度より0.2%上昇した。飲料用紙パックのリサイクルについては、全国牛乳容器環境協議会（容環協）の「プラン2025」に沿った基本的活動を継続した支援により、2021年度に対して0.1%低下したが、直近数年継続していた回収率の悪化に歯止めがなかった。日本サステイナブルレストラン協会（SRA-J）との連携や、インターネット広告事業者である、「grape社」を通じたWEBでのタイアップの実施という新規活動にも注力し、目標達成を目指している。

##### 1) 環境関連の自主的取り組みの推進

###### (1) カーボンニュートラル実現に向けた取り組み

経団連が主導するカーボンニュートラル行動計画への参画を継続した。現在の目標は、下表の通りである。

項目	2021～2030年度目標
フェーズII（2021～2030年度）目標	CO <sub>2</sub> 排出量を売上高原単位として2013年度比で38%減にする。 （2021年度実績：2013年度比30%減）

活動状況を4月から乳協HP一般サイトに掲載し、ステークホルダーへの周知を図っている。2023年度は2022年度より引き続き、株式会社 明治、雪印メグミルク株式会社、森永乳業株式会社、江崎グリコ株式会社、協同乳業株式会社、よつ葉乳業株式会社、タカナシ乳業株式会社、オハヨー乳業株式会社、中央製乳株式会社、小岩井乳業株式会社、北海道乳業株式会社、大山乳業農業協同組合（下線を施した会員事業者は関連会社含めて参画）にご協力頂いた。

参画社から、2022年度実績の提出を受け、内容を取り纏めたところ、売上高を分母とした二酸化炭排出量原単位として44.66万t-CO2/兆円であり、基準年度の数値である65.47万t-CO2/兆円から、32%減となった。また、2021年度対比では、2%減となった。2030年度目標：「2013年度比で38%減にする」に向けて順調に推移している。取り纏めた報告書は、経団連へ9月8日に提出した。業界別の実績報告は、2024年3月に経団連WEBサイトに掲載された。

(2) 循環型社会形成に向けた取り組み

経団連が主導する循環型社会形成自主行動計画への参画を継続した。現在の目標は、下表の通りである。

項目	2021～2025年度目標
最終処分量削減目標	2025年度までに2000年度比97%以上削減を維持する(売上高原単位比として) (2021年度実績：2000年度比98%削減)
業種別独自目標	2025年度まで再資源化率97%以上を維持する (2021年度実績：98%)
業種別プラスチック関連目標	[数値①]製造工程から排出される廃プラスチックについて、再資源化率95%以上を維持する (2021年度実績：96%) [定性①]容器包装プラスチックの使用量を可能な限り抑制するよう商品設計を行う [定性②]容器包装などのプラスチック原材料として、環境に配慮した素材の使用を推進する [定性③]ストローとして使用する石油由来樹脂の使用量を可能な限り削減する (2021年度実績：58t削減)
参考：経団連目標	・最終処分量削減目標「2025年度に2000年度実績比75%程度削減を維持する」 ・上記の他に業種別に独自目標とプラスチック関連目標を設定する

活動状況を4月から乳協HP一般サイトに掲載し、ステークホルダーへの周知を図ってきた。2022年度実績は以下の通りで、目標は達成できている。

- ・最終処分量削減目標 :2000年度比で98.0%減(売上高原単位比として)
- ・業種別独自目標 :再資源化率98.3%

- ・業種別プラスチック関連目標：再資源化率 97.5%

取り纏めた報告書は、2024年3月下旬に経団連WEBサイトにて公表された。また、廃棄物等ソリューション企業と連携し、食品残さが処理できるメタン発酵施設一覧など、循環型社会形成につながる情報提供を随時実施している。

カーボンニュートラル行動計画、循環型社会形成自主行動計画については、乳協HP一般サイトにおける掲載内容を2022年度実績に更新した。

### (3) 食品ロス削減に向けた取り組み

厳しい納品期限等の商習慣が続き、製品廃棄ロスの遠因となっている懸念があり、更にはこの状況を悪化させる要因となり得るいわゆる「物流の2024年問題」が目前に迫っていることから、チルド流通の「種別別 牛乳」（学乳を除く）に絞ってアンケート形式で実態調査を2023年7月～9月に実施し（有効回答率74%）、その結果を10月にまとめた。11月より消費者庁、農林水産省を訪問し、意見交換を行った。12月26日に当協会会員にメールでアンケート結果を送付し意見を求めた上で、下期のブロック会議にて説明を行った。2024年3月末に乳協HP一般サイトにて公開し、内閣府特命担当大臣、農林水産大臣宛に当協会会長名で「牛乳等の食品ロス削減に向けた商習慣改善に関する要望書」を提出した。

環境委員会参画企業の販売営業担当者と2月20日に意見交換を行い、当協会から流通業界へ商習慣改善への協力を要請する文書を提出して欲しいという強い要望を受け、流通主要5団体に事前意見交換を行った上で、協力要請書を当協会会長名で各団体に提出した。また、情報収集のために「食品ロス削減のための商習慣検討ワーキンググループ日配品検討会」、「チルド加工食品メーカー物流研究会準備会合」にオブザーバー参加した。

### (4) 環境問題相談窓口

2022年度より設置した乳協HP会員サイトにおける「環境問題相談窓口」を継続運用し、随時会員からの質問に随時対応した。

## **2) 容器包装・廃棄物等の3R推進**

### (1) 飲料用紙容器のリデュース推進

実施会社である「株式会社 ダイナックス都市環境研究所」と連携し、2021年同様に2022年度の調査は、「500ml牛乳用紙パック」に加え、「400-500mlキャップ付き容器」も調査対象とした。その結果、2021年度が2.5%だったのに対し、2022年度実績は2.7%となり、0.2%上昇した。11月1日開催のワーキンググループにて結果を関係者（紙パックサプライヤー、環境委員企業）

で確認、議論を行った上で、リサイクル調査結果とともに11月24日開催の3R推進団体連絡会で報告、11～12月に三省（経済産業、環境、農林水産）、経団連へ報告を行った。

## (2) 飲料用紙容器リサイクル活動の推進

回収率向上に向け「プラン2025」に沿い、容環協事務局を兼務し、活動支援を鋭意実施中である。例年実施している「飲料用紙容器（紙パック）リサイクルの現状と動向に関する基本調査」につき、調査実施会社である「株式会社 ダイナックス都市環境研究所」と連携し、調査を実施した。その結果、2022年度の回収率は38.7%（損紙・古紙含む）で前年よりわずか0.1%減少したが、ここ数年の悪化傾向には歯止めがかかった。容環協・「プラン2025」の五本柱の推進という基本的活動への注力が功を奏したものを推察している。リデュース調査の結果とともに、11月に3R推進団体連絡会に報告、11～12月に三省（経済産業、環境、農林水産）、経団連へ報告を行った。

SRA-J（日本サステナブルレストラン協会）と連携してレストラン店舗における地域回収力向上の実証実験を実施中である（2022年度より継続している芦屋市、練馬区、東大阪市の3カ所に、2023年度は更に厚木市、茅ヶ崎市、千代田区、名古屋市の4カ所を加えた）。

啓発活動の一環として、2022年度からインターネット広告事業者である、「grape社」を通じたWEBでのタイアップ広告を継続しており、これまでに計7回の配信を行った。Googleニュースが積極的に取り上げたこともあり、これまでの閲覧数は150万PV以上となり、容環協HPや手開き動画へのアクセス数向上にも繋げることができた。読了や脱落の傾向、熟読エリアなども解析し、読者の関心の高い事項の把握にも努めている。また、容環協の各種事業の評価、および消費者のリサイクルに対する意識や行動の把握を目的として、関東圏の1都6県、関西圏の2府4県を対象としたアンケート調査を行い（関東圏、関西圏ともにN=2,000）、有意差検定によって地域毎の傾向を把握した。解析結果を今後の容環協の業務や活動に活用する。例年と同様に、容環協として、エコプロ2023「SDGs Week EXPO」（12月6日～8日）へ出展した。容環協にて紙パック原紙の製造工程および、原料木の森林管理および紙資源を中心とする資源循環事情の調査と北米における乳・乳製品、衛生紙の市場視察を目的とした北米視察（第4回）を実施し（9月11日～16日）、2月に報告書を発行した。

## (3) その他の容器包装・廃棄物の3R推進

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会、紙製容器包装リサイクル推進協議会、LL紙パックリサイクル推進研究会、食品産業センター、CLO

MA（クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス）における各種課題に対応した委員会、セミナー等に参加し、当協会の立場で意見、要望などを表出するとともに、必要な情報を収集し、必要に応じて会員企業に開示し、3Rの推進に努めた。

プラ推進協からの依頼事項につき、2022年度の瓶牛乳プラキャップの自主回収量、及び、プラスチック容器包装のリデュース状況につき、委員企業からの回答を取り纏め提出した。宅配瓶牛乳のプラキャップの自主回収量は1,818tであり、前年の1,795tより微増した。一方、会員個社による薄肉・軽量化などの取組を行っているものの、原材料、エネルギーコスト対策として原単位である販売（製造）実績が大幅に減少したこと、小容量化が進んだこと等により、リデュースは減衰したと考えられる。また、同協会より環境配慮事例の募集もあり、2会員の2事例をプラ推進協に提出した。

また、紙推進協からの3R改善事例提出の依頼に基づき、1会員の1事例を同協会に提出した。

### **3) 環境法令遵守の推進・支援**

#### (1) 環境法令遵守に関わる情報収集と発信

会員の環境関連法令遵守に資するため、「環境関連法令マネジメントチェックシート」と「環境マネジメントチェックシート及び法令改正の要点と解説」を乳協HP会員サイトにて公開している（2023年11月8日に最新版に更新）。また、10月11日に環境セミナー「元産廃Gメンが語る行政目線の優良業者とは」を開催し、多くの受講者が参加し、活発な意見交換が行われた。11月16日にはリサイクル設備の見学会を実施し、セミナー・見学会とともに資料、動画等のコンテンツを乳協HP会員サイトにて公開した。

### **4) 環境関連新法、法令改正への対応**

#### (1) 環境関連新法・法令改正に関わる情報収集と発信

一般社団法人産業環境管理協会より環境法関連法改正に関わる情報を収集、取り纏め、乳協HP会員サイトにて会員に公開した（2ヵ月毎に更新）。容器包装リサイクル法の改正については、動向を注視して情報収集を継続した。

## 6. 総務部および事業全体の取り組み結果

当協会の更なる円滑な業務推進に向けて、部門横断的発想で効率的かつ効果的な業務改革に取り組んだ。

業務改革のひとつである業務のデジタル化は会議体や情報発信等におけるデジタルツールの活用が浸透してきており、作業効率化や情報発信効果の向上などに一定の成果を見た。今後もDXは推進していく。

牛乳・乳製品の消費拡大活動として、牛乳紙容器側面広告欄を使用した啓発広告、無償配布活動、情報発信特設サイトを組み込んだキャンペーンを展開したほか、牛乳の調理消費需要を喚起するキャンペーンを追加実施した。

SDGs活動では導入事例紹介を継続しながら、適宜企業活動への導入状況を確認して乳業界への浸透、定着を図った。

### 1) デジタル化の推進

#### (1) 各種会議、セミナー、講習会のWEB活用推進

上期に開催したブロック会議では、8会場での会議全てをハイブリッド形式で実施し、対面だけの会議に比べて約15%出席者が増加した。各部役員・部長が出席することにより質疑応答の即答性が上がり、出席者の満足度も向上するなど効果も大きかった。

理事会、事務局長会議などの会議体においてもハイブリッド開催を行い、出席者の負担軽減にも繋がっているものと考えている。

#### (2) 動画コンテンツの活用

8月3日に開催した「畜産・酪農の価格形成～中間とりまとめ説明会」では実開催とともに説明会動画のオンデマンド配信を行い、実出席の難しい会員にも内容を確認できるよう対応を行った。また、各部の活動においても講習会や活動報告などを動画コンテンツ化しており、活用は浸透している。

#### (3) 文書のペーパーレス化による業務改善

電子帳簿保存法の改正対応も視野に入れて請求書発行ソフトを導入し、乳協から発行する請求書等のペーパーレス化を実現した。これにより請求書の作成、発行、発送に関わる業務の大幅な負担軽減、費用削減を実現するとともに、テレワークでの業務も可能となったため、働き方改革にもつながった。

会議資料等については、WEB出席者に対しては資料をデータ化して送信することに代替し、印刷、発送作業・費用の削減を図った。

## 2) 情報発信力強化、会員とのコミュニケーション向上

### (1) 乳協HP会員サイトからの情報提供・発信力の改善強化

当協会から正・賛助会員、都道府県協会に向け週2回定期情報発信を行っているが、見落としや受信した社内での情報共有不足により必要な情報が届かない事例が散見されたため、全国ブロック会議で協会情報の確認・共有について情報発信のルールを周知するとともに社内での情報共有についての注意喚起を行った。

### (2) 都道府県協会との関係強化

都道府県協会とはブロック会議など直接コミュニケーションがとれる機会が多かったため単発的なWEBミーティングは行ったものの、定着化には至らなかった。次年度はミーティングの定着化に向けて都道府県協会に積極的に働きかけていく。

### (3) 会員アンケートの実施

8月17日付で正会員、都道府県協会宛てに当協会の活動に対する意見・要望を募るアンケートの案内文書を発信した。正会員、都道府県協会からの当協会に対する意見、要望については、各部からの回答を取りまとめた後に一括回答するとともに、全国事務局長会議で説明、意見交換を行った。

### (4) 牛乳・乳製品消費拡大活動の実施

飲用牛乳需要減少、生乳の乳脂肪と無脂乳固形分の需要の不均衡が課題となっている状況の中、乳業団体として牛乳・乳製品の消費拡大活動を主眼としたキャンペーンを実施した。

活動の企画はコンペティションを実施して広告宣伝業者を選定し、業者と検討を重ねて A. 牛乳紙容器側面広告欄を使用した啓発広告の実施、B. 牛乳類・乳飲料と栄養価値訴求パンフレットの配布活動、C. 牛乳を摂る効果を分かりやすく理解できる特設サイトの開設 を実施することとした。

- A. 「牛乳紙容器側面広告欄を使用した啓発広告の実施」については、正会員企業を含めて19社より協力の申し込みを受け、10月上旬より広告を掲載した牛乳・乳飲料が流通された。
- B. 「牛乳類・乳飲料と栄養価値訴求パンフレットの配布活動」では、各都道府県協会に協力を呼びかけた結果、21都道府県協会より協力の申し込みを受け、全国で約30,000人に対して牛乳・乳飲料の無償提供に合わせてノベルティ（クリアファイル）、理解醸成パンフレットが配布された。
- C. 「牛乳を摂る効果を分かりやすく理解できる特設サイト」については、サイト名を「モーっと摂ろうよ ミルクのチカラ」として、SNSでの動画広告を手掛けた「うのき」氏作画のキャラクターを中心とした牛乳非関心



層への情報提供を主体とした内容として、2023年10月1日より公開している。



ノベルティとして作成したクリアファイル



理解醸成のために新規作成したリーフレット



無償配布活動（左 函南東部農協様、右 美濃酪農農協様）

### (5) 牛乳・乳製品消費拡大活動追加施策の実施

2023 年度下期に入っても、飲用牛乳消費の減少傾向が続いていたため、調理向けによる牛乳消費需要を喚起する施策を追加実施した。

施策は、日本最大の料理レシピサイト「クラシル」に牛乳を使ったスイーツレシピを公開するとともに、特設サイトへの誘引を図るポップアップ広告を掲載し、牛乳の消費拡大、牛乳の栄養についての理解醸成の効果を期待する内容とした。



公開されたレシピ画面

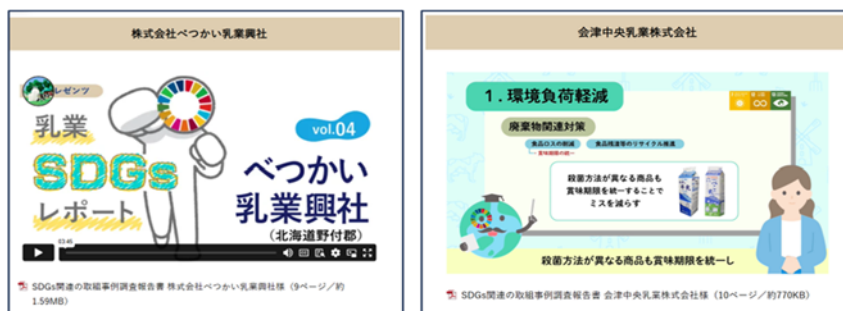
調理動画に挿入されたメッセージ

ポップアップ広告

## 3) SDGs に関連する取り組みの推進

### (1) SDGs 取り組みの各会員企業への展開

本取り組みは会員企業の活動を調査して取り纏め、乳協HP等で取り組み事例を紹介することにより、各社のSDGs活動導入を促進することを目的としている。2023年度は、北海道（べつかい乳業興社）、東北（会津中央乳業）、東海・北陸（中央製乳）、近畿（共進牧場）、中国（クボタ牛乳）の5地区5社への取材を行い、乳協HP一般サイトで報告書と概要動画を公開した。



## (2) 一斉清掃活動の推進と全国活動への展開

地域貢献として年2回（6月・11月）に行われる「千代田区一斉清掃の日」活動への参加を当協会のSDGs活動の一環として位置づけ、2023年6月1日牛乳の日と11月1日に、乳業会館内関係団体と協働して実施した。

また、全国の会員事業所が行なっている地域清掃活動を6月牛乳月間に集中して行うことで、乳業界のSDGsの取り組みとしての認知度を高めていくべく、「全国一斉地域清掃活動にチャレンジ」を本年度も実施した。全国の会員に呼びかけ、北海道から沖縄まで33都道府県の39会員（関係会社、パートナー企業含む）、119事業所、約2,300人が参加し、地域住民とのコミュニケーションアップ、企業や乳業界の信頼向上につながった。



## (3) 牛乳・乳製品のフードバンク等への無償提供等への情報提供

現在、子ども食堂等への食料支援については、社会的課題となっており注目度も高いため、全国フードバンク推進協議会の仕組みについての情報等を提供した。

また、農林水産省の「牛乳乳製品のインバウンド等消費拡大緊急対策」における補助事業「子ども食堂等への牛乳等の提供の取組支援」の案内と説明会の開催、申請のサポートを行った。補助事業を活用しない乳業者も含めて、5メーカー、2協会の会員が参画した。



地域食堂からのお礼のメッセージ

## 《2023年度 会議等開催及び出席実績》

### I. 共通・総務部

2023年4月 ～ 2024年3月実績

#### 1. 総会・理事会等

開催日	開催名
4月19日	第55回理事会（ハイブリッド開催）
5月19日	第12回定時社員総会・第56回理事会
8月18日	2022年度牛乳等衛生功労者表彰式選考会
10月13日	賛助会員の会
11月20日	第57回理事会（ハイブリッド開催）
11月20日	2023年度牛乳等衛生功労者表彰式・祝賀会
12月1日	全国事務局長会議（ハイブリッド開催）
1月9日	乳業団体合同新年賀詞交換会（出席者制限を解き従来通りの規模で開催）
3月17日	第58回理事会（ハイブリッド開催）

#### 2. 会員の総会等への出席

開催日	開催名
4月20日	九州・沖縄牛乳協会 総会
5月10日	長野県乳業協会 総会
5月22日	茨城県牛乳協会 総会

#### 3. ブロック会議

開催日	開催名
6月27日	関東・甲信越ブロック（宇都宮・ハイブリッド）
7月3日	近畿ブロック（京都・ハイブリッド）
5日	北海道ブロック（札幌・ハイブリッド）
7日	中国ブロック（広島・ハイブリッド）
12日	東海・北陸ブロック（福井・ハイブリッド）
21日	四国ブロック（高知・ハイブリッド）
8月7日	九州・沖縄ブロック（福岡・ハイブリッド）
17日	東北ブロック（秋田・ハイブリッド）
2月9日	関東・甲信越ブロック（東京）
21日	東北ブロック（盛岡）
27日	九州・沖縄ブロック（福岡）
28日	中国ブロック（広島）
3月4日	近畿ブロック（京都）
7日	東海・北陸ブロック（岐阜）
8日	近畿ブロック（兵庫）
21日	四国ブロック（高松）

#### 4. 外部会議

開催日	開催名
7月26日	食品産業センター 令和5年度第1回政策委員会
8月25日	業界関連4団体総務部門情報交換会
9月29日	食品産業センター 令和5年度第2回政策委員会
2月7日	食品産業センター 令和5年度第3回政策委員会
2月27日	業界関連4団体総務部門情報交換会

### II. 生産技術部

#### 1. 生産技術委員会

開催日	開催名
5月23日	第1回生産技術委員会 1) 新委員長選任 2) 2022年度生産技術部講習会報告 3) 2023年度生産技術部活動計画について
12月27日	第2回生産技術委員会 1) 2023年度生産技術部人材育成計画の進捗 2) 小規模事業者衛生管理支援事業 3) LL牛乳等の大臣承認廃止 4) 牛乳等の容器包装の規格基準改正 5) 残留抗菌性物質について 6) 期限表示ガイドライン改訂 7) 乳児用調製乳の国際規格適合化促進事業 8) HACCP手引書改訂(クリーム、バター)

#### 2. 乳製品表示検討委員会

開催日	開催名
5月17日	第1回乳製品表示検討委員会 1) 新委員長選任 2) 2022年度講習会報告 3) 2023年度講習会の予定について 4) 期限表示ガイドラインの改訂について

#### 3. 調製粉乳技術小委員会

開催日	開催名

8月21日	第1回調製粉乳技術小委員会 1) 厚労省あて添加物申請要望書の提出の報告 2) 自見はなこ参議院議員と液体ミルクに関する意見交換会報告 3) 栄養素添加物申請作業の進捗状況報告
-------	---

#### 4. HACCP検討小委員会

開催日	開催名
5月12日	第1回HACCP検討小委員会 1) 2022年度講習会報告 2) 2023年度講習会計画 3) クリーム、バターHACCP手引書改訂について

#### 5. 牛乳衛生講習会

開催日	開催名
7月6日	東京都牛乳衛生講習会
7月26日	山形県牛乳衛生講習会
8月3日	近畿地区牛乳衛生講習会
8月8日	静岡県牛乳衛生講習会
8月17日	岐阜県牛乳衛生講習会
8月18日	愛知県牛乳衛生講習会
8月22日	埼玉県牛乳衛生講習会
8月24日	群馬県牛乳衛生講習会
9月8日	四国地区牛乳衛生講習会
10月3日	岩手県牛乳衛生講習会
10月5日	福島県牛乳衛生講習会
10月11日	北海道牛乳衛生講習会
10月26日	九州地区牛乳衛生講習会
11月13日	千葉県牛乳衛生講習会
11月16日	石川県牛乳衛生講習会
11月22日	長野県牛乳衛生講習会
1月26日	島根県牛乳衛生講習会
1月31日	栃木県牛乳衛生講習会

#### 6. HACCP実務者講習会

開催日	開催名
9月25日～9月26日	HACCP実務者講習会(東京会場)
12月20日～12月21日	HACCP実務者講習会(博多会場)

#### 7. HACCP手引書講習会

開催日	開催名
12月28日～3月31日	HACCP手引書講習会(オンデマンド)

#### 8. 乳製品表示講習会

開催日	開催名
8月2日	乳製品表示講習会(東京会場第1回目)
2月2日	乳製品表示講習会(東京会場第2回目)

#### 9. 製造管理者講習会

開催日	開催名
11月28日	製造管理者講習会(東京会場)

#### 10. 外部会議への出席

開催日	開催名
4月10日	日本乳容器・機器協会理事会
4月10日	全国飲用牛乳公正取引協議会と期限表示設定のための意見交換会
4月13日	東京飲用牛乳協会 第1回品質改善委員会
4月14日	全国飲用牛乳公正取引協議会第3回専門部会
4月20日	九州牛乳協会総会
5月1日	常温保存可能品の規格基準化に関する厚労省及び国立医薬品食品衛生研究所との打合せ(Web)
5月16日	輸入食品安全推進協会理事会(Web)
5月16日	日本乳容器・機器協会定時総会
5月24日	食協 法改正実態調査検討会
5月24日	東京飲用牛乳協会表彰式
6月7日	東京飲用牛乳協会 第2回品質改善委員会
6月9日	(一財)マイコトキシン検査協会第29回理事会
6月9日	輸入食品安全推進協会総会(Web)
6月12日	食協法改正検討会Web
6月15日	全国飲用牛乳公正取引協議会と期限表示設定のための意見交換会
7月12日	第1回用途別規格改正WG(国立医薬品食品衛生研究所/Web)
7月21日	官能評価員能力向上・認定事業第1回検討会
8月3日	第1回国際規格専門分科会
8月11日	液体ミルクに関する意見交換会
9月5日	Jミルク安全性確保品質向上委員会
9月5日	第112回食品産業コーデックス対策委員会(WEB)
9月6日	東京飲用牛乳協会 第3回品質改善委員会
9月15日	日本健康栄養食品協会講演会
10月5日	第2回用途別規格改正WG(国立医薬品食品衛生研究所/Web)
10月23日	日本乳容器・機器協会第3回理事会
11月8日	東京飲用牛乳協会 第4回品質改善委員会
12月7日	食品衛生協会検討会(Web)

12月18日	第3回用途別規格改正WG
1月11日	日本乳容器・機器協会との装置機器自主基準及び乳業工場メンテナンス会議
1月12日	公取協期限表示設定のためのガイドライン説明会(名古屋)
1月16日	公取協期限表示設定のためのガイドライン説明会(福岡)
1月17日	第2回国際規格専門分科会
1月18日	公取協期限表示設定のためのガイドライン説明会(Web)
1月30日	公取協期限表示設定のためのガイドライン説明会(関東・甲信越)
2月6日	第114回食品産業コーデックス対策委員会(WEB)
2月14日	東京飲用牛乳協会 第5回品質改善委員会
2月20日	公取協期限表示設定のためのガイドライン説明会(Web)
2月21日	公取協期限表示設定のためのガイドライン説明会(東北)
2月28日	日本輸入食品安全推進協会第42回理事会(Web)
3月12日	食品衛生協会法改正検討会(Web)
3月26日	日健栄協臨時評議員会
3月27日	官能評価員能力向上・認定事業第3回検討会

1.1. 各種審議会・懇談会等の出席・傍聴

開催日	開催名
1月6日	厚労省HACCP手引書検討会

III. 企画・広報部

【企画関係】

1. 乳業基本問題検討委員会

開催日	開催名
10月5日	第1回乳業基本問題検討委員会（ハイブリッド会議） （1）「畜産・酪農の適正な価格形成に向けた環境整備推進会議」における沼田専務発言概要及び中間とりまとめの確認について （2）第1回「適正な価格形成に関する協議会」における農水省資料及び沼田専務他各委員の発言概要の確認について （3）「飲用牛乳WG」における発言の内容や方向性についての意見交換 （4）非公式畜産部会における松田会長発言（案）について
1月16日	第2回乳業基本問題検討委員会（ハイブリッド会議） （1）現行酪肉近の課題及び酪肉近見直しの方向性について （2）畜産部会における乳業者の発言内容について

2. 需給検討関係

開催日	開催名
5月17日	第1回牛乳乳製品需給検討委員会（ハイブリッド会議）
9月12日	第2回牛乳乳製品需給検討委員会
12月12日	第3回牛乳乳製品需給検討委員会
2月14日	第4回牛乳乳製品需給検討委員会

3. Jミルク事業関係

開催日	開催名
4月18日	第1回学乳問題特別委員会
5月17日	第2回学乳問題特別委員会
5月18日	第1回Jミルク需給委員会（ハイブリッド会議）
5月30日	Jミルク国際委員会
7月14日	第2回Jミルク需給委員会（ハイブリッド会議）
8月8日	JミルクJIDF経済市場専門分科会
9月15日	第3回Jミルク需給委員会（ハイブリッド会議）
9月20日	Jミルク生産流通専門部会
9月22日	Jミルク国際委員会分科会長・広報委員会議
9月25日	Jミルク国際委員会
10月3日	Jミルクマーケティング専門部会
12月1日	Jミルク需給情報連絡会
12月6日	Jミルク戦略ビジョン推進特別委員会
12月15日	第4回Jミルク需給委員会（ハイブリッド会議）
1月11日	Jミルクマーケティング専門部会
1月15日	JミルクJIDF経済市場専門分科会
1月17日	第5回Jミルク需給委員会（ハイブリッド会議）
2月7日	Jミルク生産流通専門部会
2月9日	Jミルク戦略ビジョン推進特別委員会
2月13日	Jミルクマーケティング専門部会
2月15日	Jミルク乳の学術連合運営委員会
3月4日	Jミルク需給情報連絡会

4. 適正な価格形成関係

開催日	開催名
4月28日	第1回畜産・酪農の適正な価格形成に向けた環境整備推進会議
5月26日	第2回畜産・酪農の適正な価格形成に向けた環境整備推進会議
6月13日	第3回畜産・酪農の適正な価格形成に向けた環境整備推進会議（中間とりまとめ案の検討）
8月3日	「畜産・酪農の適正な価格形成に向けた環境整備に係る中間とりまとめ」会員への説明会
8月29日	第1回適正な価格形成に関する協議会
10月11日	第2回適正な価格形成に関する協議会
10月20日	第1回適正な価格形成に関する協議会飲用牛乳WG
11月17日	第2回適正な価格形成に関する協議会飲用牛乳WG

12月27日	第3回適正な価格形成に関する協議会
3月15日	第3回適正な価格形成に関する協議会 飲用牛乳WG

5. GDP (グローバル・デーリィ・プラットフォーム) 関係

開催日	開催名
4月3日	第9回GDP日本会員連絡会議
4月5日	GDPムーア事務局長との懇談会
10月3日	第10回GDP日本会員連絡会議
12月20日	第11回GDP日本会員連絡会議
3月22日	第12回GDP日本会員連絡会議

6. 日本畜産物輸出促進協会関係

開催日	開催名
4月27日	第1回牛乳乳製品輸出部会
6月28日	中央畜産会 日本畜産物輸出促進協議会法人化説明
8月31日	第2回牛乳乳製品輸出部会
9月22日	日本畜産物輸出促進協会設立総会
12月13日	農林水産物輸出促進全国協議会総会
1月22日	品目別輸出協議会推進会議

7. 物流の2024年問題関係

開催日	開催名
6月19日、26日	農林水産省「我が国の物流の核心に関する関係閣僚会議」政策パッケージに関する説明会
7月4日	農林水産省「持続可能な物流の実現に向けた検討会」に係る意見交換会
9月27日	加工食品分野の流通の適正化・生産性向上に向けた取組の情報連絡会
1月31日	チルド加工食品メーカー物流研究会発足に向けた第1回会合
3月1日	チルド加工食品メーカー物流研究会発足に向けた第2回会合
3月27日	チルド加工食品メーカー物流研究会発足に向けた第3回会合

【広報関係】

1. 連絡会

開催日	開催名
4月14日	4月度東京連絡会
19日	4月度関西連絡会
5月12日	5月度東京連絡会
17日	5月度関西連絡会
6月9日	6月度東京連絡会
14日	6月度関西連絡会
7月14日	7月度東京連絡会 ※関西連絡会は資料提供のみ
13日	7月度関西連絡会
8月10日	8月度東京連絡会
23日	8月度関西連絡会
9月8日	9月度東京連絡会 ※関西連絡会は資料提供のみ
14日	9月度関西連絡会
10月11日	10月度東京連絡会
18日	10月度関西連絡会
11月9日	11月度東京連絡会 ※関西連絡会は東京連絡会にWEB参加+資料提供
16日	11月度関西連絡会
12月11日	12月度東京連絡会
18日	12月度関西連絡会
1月12日	1月度東京連絡会 ※関西連絡会は資料提供のみ
18日	1月度関西連絡会
2月9日	2月度東京連絡会
14日	2月度関西連絡会
3月8日	3月度東京連絡会
14日	3月度関西連絡会

2. 酪農乳業ペンクラブ関係

開催日	開催名
5月16日	幹事会
5月19日	第12回定時社員総会 記者説明会
6月6日	幹事会
7月6日～7月7日	総会・視察研修会 (岩手県二戸市、二戸郡、久慈市、九戸郡)
8月3日	幹事会
9月4日	幹事会
9月20日	秋季懇談会
11月17日	幹事会
1月12日	幹事会
1月22日	冬季研修会 (農林水産省牛乳乳製品課講演)
3月15日	幹事会

3. 牛乳・乳製品から食と健康を考える会

開催日	開催名
5月15日	第109回「牛乳・乳製品から食と健康を考える会」
8月29日	第106回「牛乳・乳製品から食と健康を考える会」
11月28日	第107回「牛乳・乳製品から食と健康を考える会」
3月6日	第110回「牛乳・乳製品から食と健康を考える会」

IV. 環境部

1. 環境委員会他

開催日	開催名
4月 4日	環境委員会
4月 11日	プラ推進協 広報・啓発専門部会
4月 21日	プラ推進協 企画運営委員会 (欠席)
5月 12日	プラ推進協 理事会 (欠席)
5月 18日	食品産業センター 環境委員会
5月 24日	紙推進協 理事会
5月 24～26日	2023NEW 環境展
6月 1日	プラ推進協 総会
6月 2日	容リ協会 紙容器事業委員会
6月 6日	紙推進協 総会
6月 6日	環境委員会
6月 13日	プラ推進協 広報・啓発専門部会
6月 14日	経団連 カーボンニュートラル行動計画ワーキンググループ
6月 16日	プラ推進協 企画運営委員会
6月 28日	経団連 自主行動計画 2023年度フォローアップ調査 実施説明会
6月 29日	関環協 総会・講演会
7月 14日	プラ推進協 法令勉強会 (札幌)
7月 19日	CLOMA 総会
7月 20日	食品産業センター サステナビリティ委員会
7月 21日	流通経済研究所との意見交換
7月 25日	LL研 全体会議
7月 26日	プラ推進協 プラ資源循環・3R情報報告会
7月 27日	全清飲 サマーパーティ
7月 31日	乳業技術専門分科会 (IDF)
8月 1日	環境委員会
8月 8日	プラ推進協 広報・啓発専門部会
8月 24～25日	いばらく乳業 (環境マネジメント監査)
9月 1日	プラスチック資源循環セミナー
9月 14日	食品産業センター サステナビリティ委員会
9月 26, 27日	CLOMA技術交流会
9月 27日	第2回加工食品分野の物流の適正化・生産性向上に向けた取組の情報連絡会 (WEB)
9月 27日	プラ資源循環・3R情報報告会
10月 3日	環境委員会
10月 6日	LL研 運営会議
10月 10日	プラ推進協 広報・啓発専門部会
10月 11日	環境関係セミナー
10月 12日	容リ協会 紙容器事業委員会 (虎ノ門)
10月 13日	プラ推進協 正副会長会 (欠席)
10月 20日	プラ推進協 企画運営委員会
10月 26日	経団連 カーボンニュートラル行動計画ワーキンググループ
10月 30日	北越パッケージ関東工場視察
10月 30日	プラ推進協 理事会
11月 1日	紙パブリッシュデュースワーキンググループ
11月 9日	プラ推進協 法令勉強会 (松江)
11月 13日	紙推進協 理事会
11月 14日	消費者庁食品ロス削減推進室訪問
11月 16日	環境関係現地見学会 (Jバイオフードサイクル横浜工場)
11月 21日	食品産業センター サステナビリティ委員会
11月 24日	農林水産省牛乳乳製品課訪問
11月 29日	環境委員会
11月 29日	プラ推進協 環境省リサイクル推進室との意見交換・懇親会
11月 30日	食品ロス削減のための商慣習検討WG (日配品検討会)
12月 7日	LL研 エコプロ2023
12月 8日	プラ推進協 正副会長会議
12月 11日	専修大学渡辺教授との意見交換 (食品ロス関係)
12月 12日	プラ推進協 広報・啓発専門部会
12月 15日	プラ推進協 企画運営委員会
12月 22日	プラ推進協 経済産業省資源循環経済課とのパートナーシップ会議&懇親会
12月 25日	農林水産省食品ロス・リサイクル対策室訪問
1月 10日	製パンメーカー (フジパン) と意見交換
1月 15日	消費者庁食品ロス削減推進室訪問
1月 16日	プラ推進協 賀詞交歓会
1月 24日	プラ推進協 情報報告会
1月 24日	プラ推進協 プラ資源循環・3R情報報告会
1月 30日	Jミルク 乳業技術専門分科会 (IDF)
1月 31日	チルド加工食品メーカー物流研究会 (仮称) 準備会合
2月 5日	プラ推進協 正副会長会議
2月 6日	環境委員会
2月 8日	農林水産省牛乳乳製品課訪問
2月 13日	プラ推進協 広報・啓発専門部会
2月 14日	経団連 循環型社会形成自主行動計画2023年度フォローアップ調査結果打合せ
2月 14日	スウェーデン・ジャパン サステナビリティサミット (スウェーデン大使館主催)
2月 15日	農林水産省食品ロス・リサイクル対策室訪問
2月 16日	プラ推進協 企画運営委員会



2月20日	牛乳商習慣アンケート調査結果に関する環境委員会企業販売営業担当者意見交換会
2月20日	LL研 運営委員会
2月26日	日本スーパーマーケット協会訪問
2月28日	食品ロス削減のための商慣習検討WG(配品検討会)
3月1日	チルド加工食品メーカー物流研究会(仮称)準備会合
3月4日	容リ協会 再商品化見通し等報告会
3月5日	プラ推進協 プラスチック資源循環セミナー
3月5日	乳協会長への牛乳の商習慣アンケート調査結果報告
3月12日	日本スーパーマーケット協会訪問
3月18日	食品産業センターサステナビリティ委員会 意見交換会(欠席)
3月18日	日本チェーンドラッグストア協会訪問
3月18日	全国スーパーマーケット協会訪問
3月18日	日本乳容器・機器協会春季・会員セミナー
3月19日	日本チェーンストア協会訪問
3月19日	紙推進協 理事会
3月19日	オール日本スーパーマーケット協会説明(WEB)
3月25日	プラ推進協 プラ資源循環・3R情報報告会
3月26日	消費者庁食品ロス削減推進室訪問
3月27日	チルド加工食品メーカー物流研究会(仮称)準備会合
3月29日	農林水産省食品ロス・リサイクル対策室訪問
3月29日	農林水産省牛乳乳製品課訪問

## 2. 全国牛乳容器環境協議会関係

開催日	開催名
4月6日	イベント・広報委員会
5月12日	総務・支部・月次運営委員会
4月14日	監事監査
4月20日	第97・98回理事会、第32回定時総会
4月22日	柏原市明日地球まつり～アス・アースフェス～イベント
4月25日	総務委員会WG(WEB)
5月9日	環境省リサイクル推進室訪問
5月10日	総務・支部組織委員会
5月12日	広報・イベント委員会
5月17日	四半期運営委員会
5月24～26日	2023NEW 環境展
5月25, 26日	全国都市清掃会議意見交換会
5月31日	流山市立おおたかの森小学校視察
6月1日	広報・イベント委員会
6月6～9日	FOOMA JAPAN
6月14日	総務・支部・月次運営委員会
6月17日	ちよだ環境まつり出展
6月21日	紙すき講習会
7月6日	広報・イベント委員会
7月19日	総務・支部・月次運営委員会
7月26日	コアレックス三栄東京工場見学及び意見交換
7月28日	むさしのエコreゾート夏のワークショップ
8月3日	広報・イベント委員会
8月5日	中央区リサイクル講習会
8月9日	総務・支部組織委員会
8月19日	狛江市リサイクル講習会
8月23日	四半期運営委員会
9月4日	川崎市向丘小学校出前授業
9月5日	農林水産省牛乳乳製品課訪問
9月6日	エコプロ2023出展者説明会
9月7日	広報・イベント委員会
9月11～16日	容環協北米視察
9月20日	総務・支部組織委員会
9月21日	広報・イベント委員会
9月23日	SRA-J(茅ヶ崎プロジェクト)
9月25日	川崎市立東本願小学校出前授業
10月2日	SRA-Jウェビナー
10月5日	広報委員会
10月6日	SRA-J(茅ヶ崎市長訪問)
10月11日	千葉県教育庁
10月12日	イベント委員会
10月13日	牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール一次審査(市ヶ谷)
10月14日	野田市リサイクルフェア
10月17日	ひたちなか市訪問
10月18日	NDP社打合せ(ボブ副社長来日)
10月18日	総務・支部・月次運営委員会
10月19日	広報委員会
11月2日	SRA-J(芦屋市訪問)
11月2日	広報委員会
11月4日	柏原市民総合フェス(環境フェア)
11月7日	イベント委員会(コンクール本審査準備)
11月10日	全国パック連訪問(大月)
11月10日	総務・支部組織委員会

11月14日	牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール本審査(市ヶ谷)
11月15日	四半期運営委員会
11月16日	牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール写真撮影(市ヶ谷)
11月17日	広報委員会
11月20日	FOOD MADE GOOD Japan Awards 2023(SRA-J主催)
11月27日	イベント委員会(エコプロ前最終)
11月29日	王子エコマテリアル訪問
11月30日	広報委員会
12月5日	総務・支部・月次運営委員会
12月5日	イベント委員会(エコプロ準備)
12月6~8日	エコプロ2023
12月11日	総務・支部・月次運営委員会
12月13日	川崎市との打合せ
12月13日	川崎市との打合せ
12月20日	イベント委員会
12月21日	第99回理事会
12月22日	広報委員会
12月22日	経済産業省資源循環経済課とのパートナーシップ会議&懇親会
12月23日	「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」表彰式(丸の内)
1月9日	古紙再生促進センター賀詞交換会
1月10日	大本紙料(古紙問屋)、TOPPANとの意見交換(WEB)
1月10日	イベント委員会
1月12日	広報委員会
1月17日	総務・支部・月次運営委員会
1月19日	横浜市立富岡小学校出前授業
1月25日	元気ネット訪問(遊ぶ学ぶコンクール審査員依頼)
1月29日	古紙再生促進センター「全国小中学生“紙リサイクルコンテスト”2023」審査会
2月1日	広報・イベント委員会
2月7日	総務・支部・月次運営委員会
2月14日	四半期運営委員会
2月19日	飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会(WEB)
3月7日	広報・イベント委員会
3月8日	総務・支部・月次運営委員会
3月14日	第100回理事会
3月19日	古紙問屋・再生紙メーカー意見交換会
3月23,24日	チアフェス(柏原市)
3月24日	日本環境協会こどもエコクラブ全国フェスティバル(代々木)

### 3. 飲料用紙容器リサイクル協議会関係

開催日	開催名
4月7日	3R推進団体連絡会運営委員会
5月9日	アルミ付飲料用紙容器リサイクルフロー調査報告
5月11日	3R推進団体連絡会運営委員会(欠席)
5月30日	経済産業省資源循環経済課との意見交換
5月13日	監事監査
5月19日	第31回理事会、第26回通常総会
6月7日	3R推進団体連絡会運営委員会
6月19日	3R活動推進フォーラム理事会・総会・懇親会(日比谷)
6月20日	監事監査
6月23日	第32回理事会、第27回定時総会、第33回理事会
7月5日	3R推進団体連絡会運営委員会
7月7日	紙推進協 組成調査(青森)
7月13日	3R推進団体連絡会 意見交換会(札幌)
7月21日	3R推進団体連絡会自治体情報交換会
8月2日	3R推進団体連絡会運営会議
8月22日	紙推進協打合せ
9月7日	紙容器リサイクル促進に向けたフォーラム
9月8日	3R推進団体連絡会
9月28日	3R市民リーダー育成講座(白井市)
10月4日	3R推進団体連絡会運営委員会
10月25日	3R活動推進フォーラム全国大会(秋田)
10月26,27日	全都清意見交換会(熊本)
10月31日	紙推進協 組成成分調査(横須賀市)
11月6日	3R推進団体連絡会運営委員会
11月8日	3R推進団体連絡会意見交換会(松江)
11月14日	段ボールリサイクル協議会
11月24日	臨時3R推進団体連絡会運営委員会
11月27日	3R推進団体連絡会フォローアップ報告(農林水産省)
11月28日	3R推進団体連絡会フォローアップ報告(環境省、経済産業省資源循環経済課)
12月4日	3R推進団体連絡会
12月5日	3R推進団体連絡会フォローアップ報告(経済産業省素材産業課)
12月5日	発酵乳酸菌飲料協会(エコプロ打合せ)
12月14日	容器包装リサイクル法に関する懇談会(経団連)
12月15日	3Rフォローアップ報告記者説明会
12月18日	3R推進団体連絡会・市民リーダー育成講座(文京区)
1月11日	3R推進団体連絡会運営委員会
2月2日	第18回容器包装3R推進フォーラム(田町)

2月 7日	3 R推進団体連絡会運営委員会
2月21日	3 R推進団体連絡会意見交換会 (宇都宮)
2月22日	プラスチック資源循環研修会 (宇都宮)
2月29日	3 R推進団体連絡会 市民リーダースキルアップ研修
3月 1日	3 R推進団体連絡会運営委員会
3月 4日	紙推進協 組成成分調査 (名古屋市)
3月 6日	3 R推進団体連絡会運営委員会

## 事業報告に係る附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。